

平成14年度第2回宇都宮市冒険活動運営協議会議録

日 時 平成15年2月28日(木) 10時~12時

会 場 宇都宮市冒険活動センター 会議室

出席者 坂本 宏夫 委員(至小学校長会)
中山 正孝 委員(市中学校長会)
三村 正行 委員(市PTA連合会)
四宮 茂樹委員(市子ども会連合会)
渡辺美津子 委員(市レクリエーション協会)
新村 尚 委員(県キャンプ協会)
西 順一 委員(宇都宮大学)
阿久津義正 委員(篠井地区むらづくり推進協議会)
阿久津 孝 委員(市森林組合)
古賀 延繁 委員(市公民館運営審議会)
竹内 智祐 委員(宇都宮青年会議所)

事務局 沼尾 博行 (スポーツ振興課課長)
竹内 律 (冒険活動センター所長)
塚原 和哉 (冒険活動センター副所長)
塩田 雅明 (冒険活動センター指導主事)
稲澤 正明 (冒険活動センター指導主事)

1 開 会

2 会長あいさつ

3 議 題

(1) 報告事項

平成14年度事業報告について <資料1に基づいて事務局側から説明>

(西 会 長)平成14年度事業報告について質問・意見等ありましたらお願いします。

ないようでしたら次の平成15年度事業計画について説明をお願いします。

平成15年度事業計画について <資料2に基づいて事務局側から説明>

(西 会 長)平成15年度事業計画について質問・意見等がありましたらお願いします。

(坂本委員)エンジョイサタデーの内容について教えていただきたい。

(事 務 局)土曜日の午前中に実施することを考えており、活動内容は園内のできる
野外ゲーム体験や登山などを計画している。事前の予約を必要とせず、

その日に突然窓口に来ていただいても対応できるものを考えている。
半日だけの受け入れとなってしまうのは、職員の勤務体制の関係で、
午後は極端に手薄になってしまうためである。

(渡辺委員) 冒険キャンプの応募者数が非常に多いということだが、実施回数を増やすということはできないのか。

(事務局) 現在の職員の勤務体制を考えると3回、または4回の実施は見送っている。専門指導員の勤務時間は8:30~16:00であるが、冒険キャンプ実施期間中は自ら宿泊を希望し、参加の子供達の指導にあたっているのが現状である。

(西会長) いずれの場合も指導者の不足がネックになっている感がある。

(2) 協議事項

指導者養成事業について

<資料3に基づいて事務局側から説明>

(西会長) 指導者養成事業について質問・意見などありましたら、自由にお話ください。

(四宮委員) 3日間で1つのプログラムと考えているのか。また内容についても教えていただきたい。そして参加対象が18歳以上ということだが、高校生は参加できないのか。

(事務局) 3日間で1つのプログラムと考えている。また、内容は当センターで実際に取り組んでいるプログラムとCONEのカリキュラムをあわせた内容を考えている。そして、年齢制限を設けたのはCONEの資格取得の基準に準じたためである。

(四宮委員) カリキュラムの内容が高校生でも習得可能なものであれば、資格が取得できなくても、経験をつんでもらうという意味で高校生の参加を認めてはどうか。

(事務局) 参加できるような方向で今後検討していきたい。

(四宮委員) 年1回で、しかも3日間というものでは、参加したくても3日間全て参加できない場合も考えられる。将来的には1年に2、3回実施できるよう検討して欲しい。

(坂本委員) 履修科目を設けて単位制にしてみてもどうか。

(西会長) 他にいかがですか。

(三村委員) 募集の方法はどのように考えているか。

(事務局) 広報うつのみや、公民館、新聞社などを通して募集することを考えているが、他に良い方法があれば教えていただきたい。

(三村委員) 市P連でも新聞を発行しているので、依頼していただければ掲載は可能である。

(西会長) 資格を取得したリーダーを活用したいという場合はどのような方法での

依頼が考えられるだろうか。

(事務局) 今後立ち上げていくことなので、様々な方法を試して模索していきたい。

(西会長) 指導者養成事業に係わる広報活動以外のことでいかがだろうか。

(新村委員) 指導者養成事業は素晴らしいことだと思う。ただ、養成した指導者をリーダーバンクに登録するだけで終わるのではなく、登録者同士の横の連携を図るための組織作りも行っていたきたい。また、リーダーバンクの活用の際には、いろいろな問題が発生するだろうから充分気をつけた対処が必要になってくるだろう。

(西会長) 登録者の組織作りについてはどのように考えているか。

(事務局) 登録者のネットワーク作りについては来年度検討していかねばならないことだと考えている。リーダーバンク活用については様々なところで試みられているようだが、計画どおりにいっているところばかりでないと聞いている。上手く機能させるには様々な問題が出てくると思うが、当センターの最大の強みである「ここに活躍できるフィールドがある」ということを充分生かし取り組んでいきたい。来年度にいくつかの団体の活動の中で試験的に取り入れてみたいと思っている。

(西会長) すでにリーダーバンク登録を行って活動している団体の例を踏まえ取り組んでもらいたい。

(三村委員) 有償ボランティアの料金設定のことについて伺いたい。参加者 1 人につき半日 200 円とあるが、参加者とは具体的に誰を指すのか。

(事務局) 土曜・日曜または夏休みなどに利用する社会教育団体などの参加者で、そこに参加してきた子供達等を対象にしたいと考えている。
また、先ほどの件に戻るが、登録者の組織作りはたいへん重要なことであると考えている。その中で、有資格者を対象にした定期的な研修も行っていけたらよい。そして、将来的にはこの組織が NPO 法人化されるようなものになるとさらに素晴らしいと思う。

(西会長) 立ち上げようとしているリーダーバンクは単一の組織であり、しかも活動場所をもっているということから考えても、かなりの活用が見込まれるだろう。

指導者の確保という点で、宇都宮大学の学生が定例的な参加が見込まれるとはどういったことか。

(事務局) 宇都宮大学の野外教育という授業をここで行っている。その授業の受講生が当センターの職員として多数活躍しているというこれまでの実績や受講生の中から「野外活動に関する何か資格がとれないだろうか」という声が現にあるという点からです。

(坂本委員) 野外教育という授業は一般の学生を対象として行っており、資格が取れ

るということで、今後学生に大いに呼びかけられる。

(西会長) 現在大学は法人化の動きがあり、「地元への貢献」が要請されている。この点から考えても大学側も積極的に取り組みたいと考えているはずであり、指導者養成事業にとっては追い風であろう。

(三村委員) 東京のある団体では実際に学生ボランティアを集め活動しているようだ。そして、その学生達もある一定期間活動すると大学側から単位がもらえると聞いている。

(西会長) リーダーバンク制度については以上でよろしいでしょうか。

それでは最後の新規活動プログラムについて、事務局からの説明があります。

新規活動プログラムについて <資料4に基づいて事務局側から説明>

(西会長) 新規プログラムについておはかりしたい。

緊縮予算の中、MTB 20台の予算獲得にはたいへんなご苦労があったと思うが、そのあたりの話をお聞かせ願いたい。

(事務局) 冒険活動センターでは、自然に親しむという考え方からMTBのようなツールは必要ではないだろうと当初考えられていた。しかし、センター側の、利用者の要請に応えながら新しい活動プログラムを常に考えていきたい、そしてそうすることで利用者の活動の充実そして拡大につなげていきたい、という願いが受け入れられたと思っている。また、裏話といたしまして、予算を生み出すために、これまで委託業者に任せていた清掃の一部を職員で行い、経費を削減したいという提案も所長自ら行っていた。

正式に決定するのは3月の市議会を経てからではあるが、以上のような経緯がありました。

(西会長) 1台のおおよその値段はいくらですか。

(事務局) 5万~6万円のものを購入しようと考えている。サイズについては2種類程度と思っている。

(阿久津孝委員) コースはどのように考えているか。

(事務局) 園内、篠井地区、そして篠井地区以外の3通りを考えている。

(三村委員) 利用が増えると細かな修理が必要になってくるので、維持費がかかってくるだろう。

(事務局) メンテナンスはできるだけ使用した子ども達に行ってもらえるよう活動プログラムの中に組み込んでいきたい。

(西会長) MTBに関する以外で、新しいプログラムの提案はありますか。

(新村委員) 野外活動の実施時期は夏が主となり、冬の利用者が少ないことはいたし方ないことではある。しかし、施設側としては利用者を増やす努力とし

て主催事業を四季を通して実施し、その季節でしか味わえない活動を模範プログラムのような形で提示してみてはどうか。例えば「雨が降らないとできないもの。寒くないとできないもの。風がないとできないもの。(スポーツカイト)」など。

また、MTBをツールとして活用した場合、様々な活動プログラムの開発が可能になるだろう。

- (西会長) MTBを移動の手段として活用するプログラムの開発は進められているのか。
- (事務局) 順調に進められている。林道を使用したり、讃岐観音方面のコースも検討中である。また、地元の里山風景を見学することもできる。
- (坂本委員) 総合的な学習の時間で「地域に関すること」について子供達が学んでいる様子を見ると、意外と地元のことについて良く知らない児童が多いことに気づく。篠井地区のことについて調べるプログラムがあっても良いのではないかと。MTBを使用して調べたい場所へ移動することが可能である。
- (阿久津義正委員) 活動プログラムの中の自然観察マップ作りを選択した児童生徒たちと篠井地区むらづくり推進協議会が連携を図り、調べ・まとめたものの集大成としてこの施設に備え付けの本ができたらずばらしい。また、地元独自の草刈歌もあり、何らかの形で活用してはいかがだろうか。
- また、この施設の公開デーにあたる子どものもりフェスティバルには地元の方々ほどの程度参加しているのだろうか。
- (阿久津孝委員) 広報活動はしているが、残念ながらあまり参加者は多くないようだ。常日頃から交流するための提案として、草花を植え四季折々の風情が感じられるようなエリアを設けてみてはどうだろうか。互いに手入れをすることによる交流と草花を見学するために、足を運ぶ地元の方が多くなるのではないだろうか。
- (中山委員) 冒険活動教室で来た子ども達に、地元の農家で農業体験をする活動プログラムというのはいかがだろうか。市街の子ども達は郊外での農業体験をしている生徒はほとんどいない。中学2年生では職場体験学習を行っているが、これにも結びついてくる。
- (西会長) 冬ならではの活動プログラムは何か考えられないだろうか。
- (阿久津孝委員) 草花などを植えて地元の人もそれを見に来られるようなものはどうだろうか。
- (渡辺委員) 篠井発見ラリーのコースを季節ごとに変えてみてはいかがだろうか。そして、担当する職員がコース内にある季節ごとの草花の紹介ができればよいと思う。

- (三村委員) 冬の学校利用の活動プログラムはどんなものが多いのだろうか。
- (事務局) 基本的には冬でもあまり変わらない。ただ若干ではあるが、屋内での活動や屋外炊飯場での活動が多くなっているようだ。
- (阿久津義正委員) 冬のバードウォッチングというのはどうだろうか。
- (阿久津孝委員) 昔はここにもずいぶん小鳥がいたのだが最近では減ってきているようだ。
- (西会長) 確実に見られるという状況を設定しておくことも大切ですね。
- (坂本委員) たくさんのプログラムを用意しておいても実際に選択する学校側がそれを熟知しているかどうかも大切だ。
- (古賀委員) 選択されていないプログラムについて問題点を再度検討してみてはどうだろうか。
- (西会長) 利用頻度の低いものでおすすめの活動プログラムはありますか。
- (事務局) すべて自信を持って勧められるプログラムなのですが。
学校側が独自のねらいでプログラムを選択しているので偏りが生まれてしまうことは仕方ないところもある。また、当センターも7年目を迎え、学校側にも設立の趣旨や活動プログラムのねらいが定着してきたために、選択が固定してきているとも考えられる。そこで今後私達が考えていくべきことは、指導者研修会や広報活動を通じて様々な活動プログラムを提案していくべきである。また、自主研修を行い利用頻度の低い自然観察体験活動についての指導者としての力をさらにつけていくべきであろう。
- (阿久津義正委員) 活動プログラムの内容を「静」と「動」という観点で利用頻度を見てみると、「動」の内容が多く選ばれている。子ども達の中には、体を動かすこと以外のことを好む者もいるはずある。学校側もそんな子ども達への配慮が伺えると偏りも多少変わってくるのではないか。
- (事務局) 来年度からMTBが使えるので、これを使いながらの複合プログラムを開発できるのではないか。また、より魅力ある施設を作り、利用者数を増やしていくために、食を見直すこと、そして地元との交流を再検討していきたい。
- (新村委員) 今話題にあった複合プログラムについて私も同意見です。これだけ多岐にわたる活動があるので、これを上手く組み合わせることによって新たな活動プログラムを生み出せるのではないか。
- (事務局) 新しく取り組んだプログラムの中で、「カヌー」は複合プログラムとしても考えられると思う。統計上は「カヌー」の活動回数だけが多くなっているが、川の水の中に入ることによって魚や水生植物、そして水質などの環境に関することについても自然に感じるものがあるはずだろう。同じように、これから取り入れていくMTBでも自然観察体験との複合プ

プログラムを検討していきたい。

- (古賀委員) 学校側が選択してくる活動の中で、定番化されたものをしっかり定番化していくこと。そして利用頻度の低いプログラムについては、子ども達の興味関心を踏まえながら再検討してみてもどうか。
- (西会長) 委員の方々からたいへん貴重なご意見をいただきました。今後活動プログラムの開発の際に、参考にしていただけるものと思います。
委員の方々には貴重なお時間をご提供いただきありがとうございました。